

技術開発事例	共同研究 笠間焼ギフト製品の開発		
【相手先企業】	笠間焼協同組合		
【開発の背景】			
<p>笠間焼は産地の知名度アップやシェア拡大が課題となっています。このため、当センターで H18～19 年に販売業界への聞き取りを行った結果、観光客の増加に伴い“これが昔からつくられてきた笠間焼です”と消費者へ説明が容易なギフト製品への強い要望があることが分かりました。</p> <p>笠間焼の新たなギフト製品の開発を行うため、笠間焼協同組合との共同研究により当センターでは素地や加飾の研究、シンボルマークの提案を行いました。</p>			
【開発の経緯・支援内容】			
<p>笠間焼産地は、個人作家が多いため分業率が低く、手づくり主体による製品の多様性が特徴となっています。当センターでは伝統釉の調合、笠間素地の配合、消費者アンケート調査や事業PRを行い、業界では笠間焼の新たなギフト製品を提案しました。</p>			
			
開発したギフト製品例	シンボルマークの提案	アンケート調査	
【結果】			
<ol style="list-style-type: none"> ① 伝統釉薬の開発：茶～黒色の 60 パターンを制作し、可能性が見いだせた ② 素地の開発：単味に 5～20%シャモット配合することで使いやすくなった ③ 事業の展示PR：H21年8月18～23日（於：県立図書館展）、陶&くらしのデザイン展、いばらきデザインフェアにて展示し、商談につながった ④ アンケート調査：儀礼的ギフトは少なく、父の日や母の日などお祝いや記念日に贈りたいなどパーソナルな要望が多く、価格帯は 3,000～5,000 円が 67%を占めた ⑤ シンボルマークの提案：3案制作し、事業アピールにつながった <p>報道：H21年4月28日 茨城新聞、H21年8月21日 NHK 地上波デジタル放送</p>			
基礎となった事業	平成 21 年度 オンリーワン技術開発支援事業（共同研究） テーマ名「笠間焼ギフト製品の開発 サブテーマ「伝統的笠間焼リバイバル」」		
現在の担当部門	工芸技術部門 主任研究員 材料技術部門 主任 工芸技術部門 部門長	常世田 茂 久野 亘央 吉田 博和 佐藤 茂	tel : 0296-72-0316